

第 2 回「第 5 次福岡市一般廃棄物処理基本計画」策定作業部会報告

1 開催日時等

(1) 開催日時

令和 2 年 4 月 6 日(月)13:00~14:45

(2) 会場

アクロス福岡 6 階 606 会議室

(3) 出席者（出席者 6 名，欠席者 1 名）

小出 秀雄 委員（部会長） 田中 綾子 委員
 勢一 智子 委員 久留 百合子 委員
 平 由以子 委員 松藤 康司 委員

2 議事概要

(1) 「第 5 次福岡市一般廃棄物処理基本計画」テーマ・基本方針（案）について

テーマ・基本方針（案）について，事務局から資料 2 に基づき説明後，審議した。主な意見と考え方等については以下の表のとおり。

主な意見と考え方等

意 見	意見に対する事務局の考え方等
計画の位置付けについて	
今回の計画では食品ロス対策の分野を包含するということだが，現在，市町村食品ロス削減推進計画を始め，自治体に策定が求められている法定計画の数が増えており，自治体側で内容を整理して，必要に応じて複数の計画を兼ねることが必要である。	今回策定するごみ処理基本計画の中で市町村食品ロス削減推進計画に相当する内容を規定することが出来るのであれば，別途，市町村食品ロス削減計画を策定する必要はないと考えている。
テーマ等について	
「次世代に誇れる」という文言について，環境は次世代に繋いでいくものではないか。	御意見はテーマに反映するものと，基本方針に反映するものに整理した。 左記の意見については，第 3 回作業部会にてテーマ案に反映する。
テーマは誤解されないよう，分かりやすい文言が良い。	
提示されたテーマ案はこれから議論を重ねる必要はあるが，市民に対して分かりやすい文言である必要がある。	
新型コロナウイルス感染症を踏まえると，今までの景気が良く，人口が伸びていくという福岡市においても，価値観や物の見方が変わってくる可能性があるため，これからの社会の変化を踏まえた議論が必要。	
現在のキーワードは総花的に並んでいるが，福岡市の現状及び今後 10 年間の状況予測を踏まえて，福岡市らしさが際立つテーマとするのが良いのではないか。	
キーワードについて，対象物（what）は廃棄物と決まっているが，なぜ（why），どうやって（how）等，5W1H の視点で整理した方がシンプルで明確になるのではないか。	テーマ・基本方針を検討する際の参考とさせていただきます。

<p>全国の中で福岡市のように人口増加を続けており、経済活動が活発な都市はほとんどなく、福岡市は経済成長を後押しできる環境政策ができる状況にあるため、福岡市の強みであるイノベーションを活用した環境と経済の好循環や廃棄物分野におけるサーキュラーエコノミーの構築などが福岡市の個性ではないか。</p>	<p>左記の意見については、第3回作業部会にて基本方針案に反映し、今後、具体的な施策を検討する。</p>
<p>福岡市は都市部と自然が近いコンパクトシティであるため、その辺りの特徴を捉えて地域循環共生圏の視点を強調しても良いのではないか。</p>	
<p>地域循環共生圏との関わりで言うと、福岡市は都市部だけでなく農業、漁業の生産もあり、そういった都市特性を踏まえて生産部門に着目したテーマを検討してほしい。</p>	
<p>商業都市という都市特性も踏まえておく必要がある。都市内で製品の製造が少ないため、エシカル消費といった賢い消費者の育成も必要ではないか。</p>	
<p>商業都市という都市特性からすると、製造業へのアプローチが課題となる。</p>	
<p>今回のキーワードに上がっている地域循環共生圏の概念は福岡市環境基本計画に先行して、ごみ処理基本計画に取り入れるのであれば、そのような趣旨を示してアピールしていくのが良い。</p>	
<p>地域循環共生圏の発想でいけば、福岡市域だけでなく、近隣自治体との資源循環に向けた連携も可能ではないか。</p>	
<p>福岡市は製造業の誘致を止めて「中枢管理都市」を目指したという歴史的背景があるため、そういった歴史的経緯のもと、人口増加を振り返ると良いのではないか。</p>	
<p>福岡市では古紙、プラスチックごみ、食品廃棄物の3つに焦点を当てて、施策に取り組むということを基本方針に盛り込むのがよいのではないか。</p>	<p>古紙、プラスチックごみ、食品廃棄物に対する施策については、施策体系の中で主要施策として位置付けたいと考えている。</p>

(2) 施策の方向性について（古紙の資源化、プラスチックごみ対策、食品廃棄物対策の今後の展開）

施策の方向性について、事務局から資料3から5に基づき説明後、審議した。主な意見と考え方等については以下の表のとおり。

主な意見と考え方等

意見	意見に対する事務局の考え方等
施策全般について	
<p>福岡市では起業を推進しているが、そのビジネスモデルにサーキュラーエコノミーの考え方を組み込むことを検討しても良いのではないか。既存の中小事業者に対しては、事業活動におけるSDGsの取組みについてアンケートの実施等を通じて、行政から取組みの方向性を示していくのが良いのではないか。</p>	<p>具体的な施策の検討において、スタートアップにおけるシェアリングや商品のサービス化などといったサーキュラーエコノミー型のビジネスモデルの普及策を検討する。 また、事業者アンケートについても、御指摘の点を踏まえて、今後のアンケート実施時の参考とする。</p>
<p>福岡市の経済は観光客等の交流人口に支えられているため、空港や駅といった場所で交流人口への啓発も必要ではないか。</p>	<p>具体的な施策の検討において、交流人口をターゲットとした3Rの推進策を検討する。</p>

<p>施策の将来目標と方向性を示しているが、「既存施策」との重複箇所や何が新規の項目なのかを示してもらえると議論が深まる。</p>	<p>御指摘の点を踏まえて、品目別の施策については整理し、第4回にてお示しする。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症により、ごみの発生量に変動しているはずなので、将来予測のため、早めにデータを用意していただきたい。</p>	<p>ごみ処理実績の現状をお示しする。</p>
<p>古紙の資源化の今後の転換について</p>	
<p>ペーパーレス化は長いこと言われているが、事業者の立場としてはなかなか難しい面がある。行政としてはまずは事業者の実情把握を行い、その上で対策を検討するのが良いのではないか。</p>	<p>オブザーバーからの意見聴取や事業者ヒアリングにて、実態把握に努め、具体的な施策の検討に反映したい。</p>
<p>「雑がみ」という名称ではリサイクルに結び付きにくい。古紙業界では「ミックスペーパー」という名称を用いているところもあり、資源化に結び付く名称に改めた方が良いのではないか。</p>	<p>「雑がみ」の名称については、雑がみ回収促進袋の配布等を通じて、市民に浸透しつつあるため、名称の変更については検討する。</p>
<p>家庭から出る紙ごみで問題なのはポストイングされるチラシ類である。企業の広告活動であるため、規制は難しいが、企業に発生抑制への協力を求めても良いのではないか。</p>	<p>企業への効果的な働きかけを検討し、具体的な施策の検討の際にお示ししたい。</p>
<p>ペーパーレス化の指標について、市役所内の紙使用量を指標とするのは発展性がない。行政手続のオンライン化など、福岡市の強みであるイノベーションと絡めた指標が良いのではないか。</p>	<p>福岡市としても全庁的に行政手続のオンライン化を進めており、指標化を検討する。</p>
<p>アンケート結果では20、30代が段ボールを可燃ごみで出す割合が多いが、福岡市は若者人口が多いため、このことも都市の特性として検討していただきたい。</p>	<p>アンケート調査等で傾向を把握しているため、効果的な施策の検討を進める。</p>
<p>プラスチックごみ対策の今後の展開について</p>	
<p>プラスチック製品が溢れている現状では消費者の努力だけではプラスチックごみの削減は難しい。現実問題として、製造側への施策が必要ではないか。</p>	<p>製造業へのアプローチは大変重要であるため、第6回作業部会以降に具体的な施策として検討する。</p>
<p>容器包装リサイクル法ができた時期に詰め替え用品を販売している小売業者を調べてガイドブック化した人などもいたので、そのような取り組みや小売店での簡易包装キャンペーンが出来ないか、法律上問題があるかどうかも含めて検討してもらいたい。</p>	<p>詰め替え用品販売店の情報提供や共同キャンペーンについては、プラスチックごみ削減に向けて、市と事業者との協議の場を設けることとしており、その中で実施方法について協議するとともに、オブザーバー招致や事業者ヒアリング結果も踏まえて、第6回作業部会以降に具体的な施策として検討する。</p>
<p>プラスチックによる海洋汚染については、地域清掃活動が重要となるが、地域コミュニティの活動で不足するところは、事業者にも協力を仰ぐことも必要ではないか。特にプラスチック容器を提供する事業者には参加を求める必要がある。</p>	
<p>サーキュラーエコノミーでは営利活動に使用した資源については、企業が責任を持つというのが大原則である。事業系ごみについては、排出者責任の考え方があり、最近の事例で言えば、タピオカドリンクなどのように、プラスチック容器を提供する事業者については、容器の回収まで責任を持つことを原則として考えていく必要がある。ポストイング業者についても同様に対応すべきではないか。</p>	<p>第6回作業部会以降の具体的な施策の検討において、事業者との連携のあり方や容器回収などの排出事業者責任を果たす施策を検討する。</p>

<p>プラスチックごみは使い捨て（ワンウェイ）が問題であるという認識を持たなければならない。代替素材として紙があるが、紙も使い捨てて良いわけではない。また、生分解性プラスチックも配合率の問題があり、必ずしも環境に良いわけではない。そういった点を教育・啓発していく必要がある。海外ではごみ箱に処理方法を記載して啓発している事例もあり、排出したごみがどのように処理されるか啓発していくのが良いのではないか。</p>	<p>第6回作業部会以降の具体的な施策の検討において、使い捨て容器の問題や生分解性プラスチックに関する教育・啓発策を検討する。</p>
<p>食品廃棄物（食品ロス含む）に関する施策の方向性について</p>	
<p>段ボールコンポストをコミュニティ単位で実施すると定着率が高い。福岡市の都市特性であるコンパクトシティを支えるさらに小さなコミュニティでの資源循環，サーキュラーエコノミーの仕組みを作っていくことを方向性として示すのが良いのではないか。</p>	<p>地域コミュニティの実情を踏まえて，資源循環に繋がる施策を検討する。</p>

(3) オブザーバーの招致と事業者ヒアリングについて

オブザーバーの招致と事業者ヒアリングについて，事務局から資料6に基づき説明後，審議した。主な意見と考え方等については以下の表のとおり。

主な意見と考え方等

意見	意見に対する事務局の考え方等
<p>先進的な取組みを行っている事業者を招致する場合は取組みを聴取するだけでなく，施策を推進するためのアイデア出しや試験的な取組みの検討など，前向きな議論ができるヒアリングにしていきたい。</p>	<p>オブザーバー招致及び対象事業者選定時の参考とさせていただきます。</p>
<p>多様な業種を招致することで，市の取組みが業界に伝わり良いのではないか。</p>	